

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人間の尊厳と自立 (社会福祉基礎)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 伊藤 晃子 (令和6年度)	
授業の回数 6	時間数 6	配当学年・時期 2年次		必修・選択 必修	
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉に関する基礎的な知識を習得し、社会福祉の意義や役割を理解させるとともに人間としての尊厳の在り方を考えさせる。 ・社会保障制度を理解させ、利用者に助言できる能力を身に付けさせる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の理念と意義及び人権と尊厳を意識した自立・自律支援の在り方 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><人間の尊厳と自立></p> <ul style="list-style-type: none"> ・尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。 					
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p>					
授業テーマ		授業時間数	内 容		授業方法
【人間の尊厳と自立】 ・ <u>人間の尊厳と自立</u>		6	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳と福祉社会の創造 ・人間としての尊厳 ・自立生活支援・尊厳を支えるケア ・福祉社会の創造 		講義 演習
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> 社会福祉基礎 (実教出版) 実務者研修テキスト第1巻 (中央法規出版)			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> 定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。		

授業のタイトル（科目名） 社会の理解Ⅰ （社会福祉基礎）		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 伊藤 晃子（令和6年度）									
授業の回数 6	時間数 6	配当学年・時期 2年次		必修・選択 必修									
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉に関する基礎的な知識を習得し、社会福祉の意義や役割を理解させるとともに人間としての尊厳の在り方を考えさせる。 ・社会保障制度を理解させ、利用者に助言できる能力を身に付けさせる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を支える社会保障制度、介護実践にかかわる諸制度 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><社会の理解Ⅰ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 													
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業テーマ</th> <th>授業時間数</th> <th>内 容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 【社会の理解Ⅰ】 ・介護保険制度 </td> <td>6</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉 ・介護保険制度創設の背景と目的 ・高齢者の在宅サービスの基礎的理解 ・老人保健施設・老人福祉施設等高齢者の地域生活を支えるサービス ・介護保険制度における専門職の役割 </td> <td> 講義 演習 </td> </tr> </tbody> </table>						授業テーマ	授業時間数	内 容	授業方法	【社会の理解Ⅰ】 ・介護保険制度	6	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉 ・介護保険制度創設の背景と目的 ・高齢者の在宅サービスの基礎的理解 ・老人保健施設・老人福祉施設等高齢者の地域生活を支えるサービス ・介護保険制度における専門職の役割 	講義 演習
授業テーマ	授業時間数	内 容	授業方法										
【社会の理解Ⅰ】 ・介護保険制度	6	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉 ・介護保険制度創設の背景と目的 ・高齢者の在宅サービスの基礎的理解 ・老人保健施設・老人福祉施設等高齢者の地域生活を支えるサービス ・介護保険制度における専門職の役割 	講義 演習										
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>社会福祉基礎（実教出版） 実務者研修テキスト第1巻（中央法規出版）</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>										

授業のタイトル（科目名） 社会の理解Ⅱ （社会福祉基礎）		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 伊藤 晃子（令和6年度）	
授業の回数 36	時間数 36	配当学年・時期 2年次	必修・選択 必修		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉に関する基礎的な知識を習得し、社会福祉の意義や役割を理解させるとともに人間としての尊厳の在り方を考えさせる。 ・社会保障制度を理解させ、利用者に助言できる能力を身に付けさせる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の理念と意義及び人権と尊厳を意識した自立・自律支援の在り方 ・生活を支える社会保障制度、介護実践にかかわる諸制度 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><社会の理解Ⅱ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族、地域、社会との関連から生活と福祉を捉えることができる。 ・社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得している。 ・障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 ・成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。 					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
授業テーマ		授業時間数	内 容		授業方法
<p>【社会の理解Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活と福祉 ・社会保障制度 ・障害者自立支援制度 ・介護実践に関連する諸制度 		36	<ul style="list-style-type: none"> ・生活と福祉 ・地域社会の変化 ・生活の変化 ・人の一生と社会福祉 ・障害者福祉 ・障害者の自立支援 ・国民生活を支える社会保障制度 ・日本の社会保険制度の枠組み ・生活支援のための公的扶助 ・生活保護の種類と基準 ・多様な社会的支援制度 ・権利擁護と成年後見制度 ・地域医療、教育、雇用・就労支援、住宅・居住サポート ・司法と福祉の連携 		講義 演習
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>社会福祉基礎（実教出版） 実務者研修テキスト第1巻 （中央法規出版）</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>		

授業のタイトル (科目名) 介護の基本 I (介護福祉基礎)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 石井 文佳 (令和 6 年度)	
授業の回数 1 2	時間数 1 2	配当学年・時期 2 年次		必修・選択 必修	
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護を取り巻く状況や介護福祉サービスの確立、専門職の制度化について理解させ、自立支援に基づいた適切な介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育成する。 ・利用者の生活の理解と支援の在り方を考えさせるとともに、介護における安全確保と危機管理能力も身に付けさせる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉の担い手 ・介護の意義と役割 ・介護を必要とする人の理解と介護 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><介護の基本 I></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。 ・個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ・介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。 					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
授業テーマ		授業時間数	内 容		授業方法
<p>【介護の基本 I】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士制度 ・尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方の展開 ・介護福祉士の倫理 		1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・介護従事者をとりまく状況 ・介護福祉士の養成 ・介護従事者のキャリアアップ研修 ・介護従事者の役割 ・尊厳を支える介護 ・その人らしく・尊厳・基本的人権 ・高齢者の人格と尊厳、障害のある人の人格と尊厳、利用者本位の介護サービス ・介護従事者の倫理 ・尊厳・プライバシー保護、専門性と基本姿勢 		講義 演習
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉基礎 (実教出版) 実務者研修テキスト第 2 巻 (中央法規)</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>		

授業のタイトル (科目名) 介護の基本Ⅱ (介護福祉基礎)		授業の種類 (講義) (演習)・実習		授業担当者 石井 文佳 (令和6年度)	
授業の回数 24	時間数 24	配当学年・時期 2年次		必修・選択 必修	
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護を取り巻く状況や介護福祉サービスの確立、専門職の制度化について理解させ、自立支援に基づいた適切な介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育成する。 ・利用者の生活の理解と支援の在り方を考えさせるとともに、介護における安全確保と危機管理能力も身に付けさせる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉の担い手 ・介護の意義と役割 ・介護を必要とする人の理解と介護 ・介護における安全確保と危機管理 <p>【授業終了時の達成目標】</p> <p><介護の基本Ⅱ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする高齢者や障がい者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ・チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。 ・リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。 ・介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。 					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
授業テーマ		授業時間数	内 容		授業方法
<p>【介護の基本Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u> ・<u>介護実践における連携</u> ・<u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u> ・<u>介護福祉士の安全</u> 		24	<ul style="list-style-type: none"> ・介護従事者として踏まえるべき倫理 ・生活支援・生活を支える介護 ・介護における連携・他職種連携・地域福祉 ・介護における安全確保と事故対策 ・介護におけるリスクマネジメント ・事故予防対策、防災対策、感染対策 ・身体拘束の禁止 ・介護従事者の健康管理 ・安心して働ける環境づくり 		講義 演習
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉基礎 (実教出版) 実務者研修テキスト第2巻 (中央法規出版)</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>		

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術 (コミュニケーション技術)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 伊藤 香織 (令和6年度)																	
授業の回数 24	時間数 24	配当学年・時期 2年次		必修・選択 必修																	
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 対人援助におけるコミュニケーションに関する知識と技術を修得させ、高齢者や障がい者及びその家族との信頼関係を形成し、介護福祉援助活動で活用する能力と態度を育成させる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護におけるコミュニケーション サービス利用者や家族とのコミュニケーション 介護におけるチームのコミュニケーション 適切な記録、報告、会議による情報の共有 <p>【授業終了時の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。 援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。 利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。 																					
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業テーマ</th> <th>授業時間数</th> <th>内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 【コミュニケーション技術】 ・<u>介護におけるコミュニケーション技術</u> </td> <td>8</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 介護におけるコミュニケーションの基本 介護におけるコミュニケーションの役割(利用者・家族との信頼関係の形成、介護職として接する利用者の思いを感じる) 介護における生活支援とコミュニケーション(介護福祉士に求められるコミュニケーション技術) </td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td> ・<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> </td> <td>8</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション(さまざまなコミュニケーション技法) 話を聴く技法・質問の技法 利用者の特性に応じたコミュニケーション 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 (高次脳機能障害、失語症、高音障害、認知症、視覚障害、聴覚障害、知的障害、精神障害等) </td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td> ・<u>介護におけるチームのコミュニケーション</u> </td> <td>8</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 介護におけるチームのコミュニケーション 記録、報告・連絡・相談、会議 多職種協働によるコミュニケーションの重要性 事故報告書、ヒヤリハット報告書、情報の保護と管理 </td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>						授業テーマ	授業時間数	内容	授業方法	【コミュニケーション技術】 ・ <u>介護におけるコミュニケーション技術</u>	8	<ul style="list-style-type: none"> 介護におけるコミュニケーションの基本 介護におけるコミュニケーションの役割(利用者・家族との信頼関係の形成、介護職として接する利用者の思いを感じる) 介護における生活支援とコミュニケーション(介護福祉士に求められるコミュニケーション技術) 	講義 演習	・ <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>	8	<ul style="list-style-type: none"> 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション(さまざまなコミュニケーション技法) 話を聴く技法・質問の技法 利用者の特性に応じたコミュニケーション 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 (高次脳機能障害、失語症、高音障害、認知症、視覚障害、聴覚障害、知的障害、精神障害等) 	演習	・ <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>	8	<ul style="list-style-type: none"> 介護におけるチームのコミュニケーション 記録、報告・連絡・相談、会議 多職種協働によるコミュニケーションの重要性 事故報告書、ヒヤリハット報告書、情報の保護と管理 	講義 演習
授業テーマ	授業時間数	内容	授業方法																		
【コミュニケーション技術】 ・ <u>介護におけるコミュニケーション技術</u>	8	<ul style="list-style-type: none"> 介護におけるコミュニケーションの基本 介護におけるコミュニケーションの役割(利用者・家族との信頼関係の形成、介護職として接する利用者の思いを感じる) 介護における生活支援とコミュニケーション(介護福祉士に求められるコミュニケーション技術) 	講義 演習																		
・ <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>	8	<ul style="list-style-type: none"> 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション(さまざまなコミュニケーション技法) 話を聴く技法・質問の技法 利用者の特性に応じたコミュニケーション 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 (高次脳機能障害、失語症、高音障害、認知症、視覚障害、聴覚障害、知的障害、精神障害等) 	演習																		
・ <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>	8	<ul style="list-style-type: none"> 介護におけるチームのコミュニケーション 記録、報告・連絡・相談、会議 多職種協働によるコミュニケーションの重要性 事故報告書、ヒヤリハット報告書、情報の保護と管理 	講義 演習																		
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> コミュニケーション技術(実教出版) 実務者研修テキスト第2巻 (中央法規出版)			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> 定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。																		

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 I (生活支援技術)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 石井 文佳・伊藤 香織 ・伊藤 晃子 (令和6年度)	
授業の回数 24	時間数 24	配当学年・時期 2・3年次		必修・選択 必修	
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICFの視点に基づいた支援の在り方を理解させ、基礎的な介護の知識と技術を習得させ、適切かつ安全に支援できる能力と態度を身に付けさせる。 ・ 「こころとからだの理解」と関連付け、介護実践の根拠となる介護に必要な人体の構造や機能を理解させる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援の理解 ・ 自立に向けた生活支援技術 ・ 終末期・緊急時の介護 <p>【授業終了時の達成目標】</p> <p><生活支援技術 I></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援における ICFの意義と枠組みを理解している。 ・ ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ・ 介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 ・ 居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。 					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
授業テーマ		授業時間数	内 容		授業方法
<p>【生活支援技術 I】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>生活支援と ICF</u> ・ <u>ボディメカニクスの活用</u> ・ <u>介護技術の基本</u> 移動・移乗、食事、入浴 ・ 清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等 ・ <u>環境整備、福祉用具活用等の視点</u> 		24	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援に向けたアセスメント ・ 生活支援におけるアセスメント ・ ICFの視点とアセスメント ・ 移動の介護 ・ 移動・移乗における介護技術 ・ ボディメカニクスの活用 ・ 食事の介護、口腔ケア ・ 入浴・清潔保持の介護 ・ 排泄の介護 ・ 睡眠の介護 ・ 着脱、整容、口腔清潔、家事援助 ・ 居住環境の整備、福祉用具 		<p>講義 演習</p> <p>実習</p>
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>生活支援技術 (実教出版) 実務者研修テキスト第2巻 (中央法規出版)</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>		

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅱ (生活支援技術)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 石井 文佳・伊藤 香織 ・伊藤 晃子 (令和6年度)									
授業の回数 36	時間数 36	配当学年・時期 2・3年次		必修・選択 必修									
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICFの視点に基づいた支援の在り方を理解させ、基礎的な介護の知識と技術を習得させ、適切かつ安全に支援できる能力と態度を身に付けさせる。 ・ 「こころとからだの理解」と関連付け、介護実践の根拠となる介護に必要な人体の構造や機能を理解させる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援の理解 ・ 自立に向けた生活支援技術 ・ 終末期・緊急時の介護 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><生活支援技術Ⅱ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以下について、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、終末期の介護) 													
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業テーマ</th> <th>授業時間数</th> <th>内 容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>【生活支援技術Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備</u> ・ <u>移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、終末期の介護</u> </td> <td>36</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援の理解 ・ 生活支援を必要とする人の理解、障害者への理解(身体障害、知的障害、精神障害) ・ 認知症の理解 ・ 福祉用具の扱い方 ・ 終末期の介護 ・ ターミナルケア、緩和ケア、ホスピスケア、グリーフケア ・ 基本的介護技術の実習 </td> <td> 講義 演習 実習 </td> </tr> </tbody> </table>						授業テーマ	授業時間数	内 容	授業方法	<p>【生活支援技術Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備</u> ・ <u>移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、終末期の介護</u> 	36	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援の理解 ・ 生活支援を必要とする人の理解、障害者への理解(身体障害、知的障害、精神障害) ・ 認知症の理解 ・ 福祉用具の扱い方 ・ 終末期の介護 ・ ターミナルケア、緩和ケア、ホスピスケア、グリーフケア ・ 基本的介護技術の実習 	講義 演習 実習
授業テーマ	授業時間数	内 容	授業方法										
<p>【生活支援技術Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備</u> ・ <u>移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、終末期の介護</u> 	36	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援の理解 ・ 生活支援を必要とする人の理解、障害者への理解(身体障害、知的障害、精神障害) ・ 認知症の理解 ・ 福祉用具の扱い方 ・ 終末期の介護 ・ ターミナルケア、緩和ケア、ホスピスケア、グリーフケア ・ 基本的介護技術の実習 	講義 演習 実習										
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>生活支援技術 (実教出版) 実務者研修テキスト第2巻 (中央法規出版)</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>										

授業のタイトル 「医療的ケア」 (生活支援技術)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 趙 由紀美 (令和6年度)	
授業の回数 70	時間数 70	配当学年・時期 3年次		必修・選択 必修	
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得させる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア実施の基礎 ・喀痰吸引(基礎的知識、実施手順) ・経管栄養(基礎的知識、実施手順) ・演習 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。 ◎医療的ケア実施の基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握など、医療的ケアを安全・適切に実施する上で基礎となる内容を理解する。 ◎喀痰吸引 <ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。 ◎経管栄養 <ul style="list-style-type: none"> ・経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。 ◎演習 <ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引実習については、口腔5回以上、鼻腔5回以上、気管カニューレ内部5回以上を実施し、規定の基準の実技試験に合格する。 ・経管栄養実習については、胃ろう又は腸ろう5回以上、経鼻経管栄養5回以上実施し、規定の基準の実技試験に合格する。 ◎救急蘇生法演習を1回以上実施し規定の基準の実技試験に合格する。 					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
授業テーマ		授業時間数	内 容		授業方法
【医療的ケア】 1 医療的ケア実施の基礎		60 (20)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な療養生活 ・清潔保持と感染予防 ・健康状態の把握 ・呼吸のしくみと働き 		講義 演習 実習
2 喀痰吸引(基礎的知識、 実施手順)		(20)	<ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引とは ・安全確保 ・吸引の技術と留意点 		
3 経管栄養(基礎的知識、 実施手順)		(20)	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器系のしくみとはたらき ・経管栄養とは ・経管栄養の技術と留意点 		
4 演習		10 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・演習実施 1 喀痰吸引実習 口腔5回以上 鼻腔5回以上 気管カニューレ内部5回以上 2 経管栄養実習 胃ろう5回以上 経鼻経管栄養5回以上 		
		(4)	<ul style="list-style-type: none"> 3 緊急蘇生法演習 1回以上 		
【使用テキスト・参考文献】 最新介護福祉士養成講座 15 医療的ケア (中央法規出版)			【単位認定の方法及び基準】 定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。		

授業のタイトル (科目名) 介護過程 I (介護福祉基礎)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 石井 文佳 (令和6年度)	
授業の回数 24	時間数 24	配当学年・時期 2年次	必修・選択 必修		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する基礎的知識や技術を統合して、適切な介護が提供できるようにする。 利用者の尊厳の保持と自立生活支援を踏まえた介護過程の意義と役割を理解し介護過程が展開できる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護過程の意義と役割・ICFによる分類、アセスメントと介護計画書作成 介護従事者として必要な介護過程の実践的展開例の研究 介護過程とチームアプローチの展開 「介護実習」での利用者のアセスメント、介護計画書の作成と事例研究 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><介護過程 I ></p> <ul style="list-style-type: none"> 介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。 					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
授業テーマ		授業時間数	内 容		授業方法
<p>【介護過程 I】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護過程の基礎的知識 介護過程の展開 介護過程とチームアプローチ 		24	<ul style="list-style-type: none"> 介護過程の意義と目的 介護過程の理解 介護過程の全体像、アセスメント、計画の立案、実施、評価 チームアプローチにおける介護職の役割 情報の共有とカンファレンス 		講義 演習
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護過程 (実教出版) 実務者研修テキスト第3巻 (中央法規出版)</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>		

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅱ (介護過程)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 石井 文佳 (令和6年度)	
授業の回数 30	時間数 30	配当学年・時期 3年次	必修・選択 必修		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する基礎的知識や技術を統合して、適切な介護が提供できるようにする。 利用者の尊厳の保持と自立生活支援を踏まえた介護過程の意義と役割を理解し介護過程が展開できる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護過程の意義と役割・ICFによる分類、アセスメントと介護計画書作成 介護従事者として必要な介護過程の実践的展開例の研究 介護過程とチームアプローチの展開 「介護実習」での利用者のアセスメント、介護計画書の作成と事例研究 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><介護過程Ⅱ></p> <ul style="list-style-type: none"> 情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。 					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
授業テーマ		授業時間数	内 容		授業方法
【介護過程Ⅱ】 ・介護過程の展開の実際		30	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開 介護過程の実践的展開 アセスメントの実際、生活歴、促進因子、阻害因子及びニーズの把握 		講義 演習
【使用テキスト・参考文献】 介護過程 (実教出版) 実務者研修テキスト第3巻 (中央法規出版)			【単位認定の方法及び基準】 定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。		

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅲ (介護過程)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 石井 文佳(令和6年度)	
授業の回数 5 4	時間数 5 4	配当学年・時期 3年次		必修・選択 必修	
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する基礎的知識や技術を統合して、適切な介護が提供できるようにする。 利用者の尊厳の保持と自立生活支援を踏まえた介護過程の意義と役割を理解し介護過程が展開できる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護過程の意義と役割・ICFによる分類、アセスメントと介護計画書作成 介護従事者として必要な介護過程の実践的展開例の研究 介護過程とチームアプローチの展開 「介護実習」での利用者のアセスメント、介護計画書の作成と事例研究 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><介護過程Ⅲ></p> <ul style="list-style-type: none"> 実務者研修で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。 					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
授業テーマ		授業時間数	内 容		授業方法
<p>【介護過程Ⅲ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護過程の展開の実際 介護技術の評価 		5 4	<ul style="list-style-type: none"> 介護過程展開の実際 利用者の生活と介護過程の展開 利用者のさまざまな生活と介護過程の展開 介護過程とチームアプローチ 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 介護実習での利用者の事例 アセスメント表の作成、介護計画書の作成と実践及び評価 事例研究発表 グループワーク ロールプレイ 		<p>講義 演習</p> <p>演習</p>
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護過程 (実教出版) 実務者研修テキスト第3巻 (中央法規出版)</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>		

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解 I (こころとからだの理解)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 伊藤 香織 (令和 6 年度)	
授業の回数 1 2	時間数 1 2	配当学年・時期 3 年次	必修・選択 必修		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の成長と発達及び老化に伴う症状・疾病についての基礎的な知識を理解させるとともに、支援の留意点について理解させる。 老化に伴う心身や日常生活の変化、家庭や地域での役割の変化、喪失体験などについて考えさせる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の成長と発達 老年期の理解と日常生活 高齢者と健康 高齢者疑似体験 高齢者への日常生活支援の留意点 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><発達と老化の理解 I ></p> <ul style="list-style-type: none"> 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
授業テーマ		授業時間数	内 容		授業方法
<p>【発達と老化の理解 I】</p> <ul style="list-style-type: none"> 老化に伴う心の変化と日常生活への影響 老化に伴うからだの変化と日常生活への影響 		1 2	<ul style="list-style-type: none"> 発達とは 発達と老化の理解 老年期の理解と日常生活 老年期の発達と成熟 加齢に伴う心身の変化の特徴 加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響 		講義 演習
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>こころとからだの理解 (実教出版) 実務者研修テキスト第 4 巻 (中央法規出版)</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>		

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解Ⅱ (こころとからだの理解)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 伊藤 香織 (令和6年度)									
授業の回数 24	時間数 24	配当学年・時期 3年次	必修・選択 必修										
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の成長と発達及び老化に伴う症状・疾病についての基礎的な知識を理解させるとともに、支援の留意点について理解させる。 ・老化に伴う心身や日常生活の変化、家庭や地域での役割の変化、喪失体験などについて考えさせる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の成長と発達 ・老年期の理解と日常生活 ・高齢者と健康 ・高齢者疑似体験 ・高齢者への日常生活支援の留意点 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><発達と老化の理解Ⅱ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ・老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。 ・高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。 													
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業テーマ</th> <th>授業時間数</th> <th>内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>【発達と老化の理解Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の成長・発達 ・老年期の発達・成熟と心理 ・高齢者に多い症状・疾病等と留意点 </td> <td>24</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・発達とは ・人間の発達と発達課題 ・老年期の理解と日常生活 ・高齢者の心理 ・サクセスフルエイジング ・高齢者と健康 ・高齢者の疾病と生活上の留意点 ・保健・医療職との連携 </td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>						授業テーマ	授業時間数	内容	授業方法	<p>【発達と老化の理解Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の成長・発達 ・老年期の発達・成熟と心理 ・高齢者に多い症状・疾病等と留意点 	24	<ul style="list-style-type: none"> ・発達とは ・人間の発達と発達課題 ・老年期の理解と日常生活 ・高齢者の心理 ・サクセスフルエイジング ・高齢者と健康 ・高齢者の疾病と生活上の留意点 ・保健・医療職との連携 	講義 演習
授業テーマ	授業時間数	内容	授業方法										
<p>【発達と老化の理解Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の成長・発達 ・老年期の発達・成熟と心理 ・高齢者に多い症状・疾病等と留意点 	24	<ul style="list-style-type: none"> ・発達とは ・人間の発達と発達課題 ・老年期の理解と日常生活 ・高齢者の心理 ・サクセスフルエイジング ・高齢者と健康 ・高齢者の疾病と生活上の留意点 ・保健・医療職との連携 	講義 演習										
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>こころとからだの理解 (実教出版) 実務者研修テキスト第4巻 (中央法規出版)</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>										

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅰ （こころとからだの理解）		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 伊藤 晃子（令和6年度）	
授業の回数 1 2	時間数 1 2	配当学年・時期 3年次	必修・選択 必修		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症の原因となる主な疾病や症状の特徴、機能の変化や生活障がい、認知症ケアなどについて理解させるとともに、家族への支援や地域における支援体制の在り方について考えさせる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症の基礎的理解 認知症の症状・診断 認知症に伴う心身の変化と日常生活 認知症を取り巻く状況 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><認知症の理解Ⅰ></p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 認知症による生活上の障がい、心理・行動の特徴を理解している。 認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。 					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
授業テーマ		授業時間数	内 容		授業方法
<p>【認知症の理解Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症ケアの理念 認知症による生活障害、心理・行動の特徴 認知症の人とのかかわり・支援の基本 		1 2	<ul style="list-style-type: none"> 認知症をとりまく環境 認知症介護の歴史と理念 認知症高齢者の現状と今後 認知症に関する行政の方針と施策 認知症の基礎的理解 		講義 演習
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>こころとからだの理解（実教出版） 実務者研修テキスト第4巻 （中央法規出版）</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>		

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅰ （こころとからだの理解）		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 伊藤 晃子（令和6年度）	
授業の回数 1 2	時間数 1 2	配当学年・時期 3年次	必修・選択 必修		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症の原因となる主な疾病や症状の特徴、機能の変化や生活障がい、認知症ケアなどについて理解させるとともに、家族への支援や地域における支援体制の在り方について考えさせる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症の基礎的理解 認知症の症状・診断 認知症に伴う心身の変化と日常生活 認知症を取り巻く状況 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><認知症の理解Ⅰ></p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 認知症による生活上の障がい、心理・行動の特徴を理解している。 認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。 					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
授業テーマ		授業時間数	内 容		授業方法
<p>【認知症の理解Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症ケアの理念 認知症による生活障がい、心理・行動の特徴 認知症の人とのかかわり・支援の基本 		1 2	<ul style="list-style-type: none"> 認知症をとりまく環境 認知症介護の歴史と理念 認知症高齢者の現状と今後 認知症に関する行政の方針と施策 認知症の基礎的理解 		講義 演習
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>こころとからだの理解（実教出版） 実務者研修テキスト第4巻 （中央法規出版）</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>		

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅱ （こころとからだの理解）		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 伊藤 晃子（令和6年度）
授業の回数 24	時間数 24	配当学年・時期 3年次	必修・選択 必修	
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症の原因となる主な疾病や症状の特徴、機能の変化や生活障がい、認知症ケアなどについて理解させるとともに、家族への支援や地域における支援体制の在り方について考えさせる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症の基礎的理解 認知症の症状・診断 認知症に伴う心身の変化と日常生活 認知症を取り巻く状況 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><認知症の理解Ⅱ></p> <ul style="list-style-type: none"> 代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障がい、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
授業テーマ		授業時間数	内容	授業方法
<p>【認知症の理解Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医学的側面から見た認知症の理解 認知症の人や家族への支援の実際 		24	<ul style="list-style-type: none"> 認知症による症状 認知症の診断 認知症の主な病気の特徴 若年性認知症 認知症の薬物療法 認知症に伴う心身の変化と日常生活 認知症の人の特徴的な行動と心理 実際のかかわり方の基本 認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響 認知症と地域サポート 地域におけるサポート体制 家族への支援 初期・中期・後期の認知症への介護 	講義 演習
<p>【使用テキスト・参考資料】</p> <p>こころとからだの理解（実教出版） 実務者研修テキスト第4巻 （中央法規出版）</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>		

授業のタイトル (科目名) 障害の理解 I (こころとからだの理解)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 伊藤 晃子 (令和6年度)	
授業の回数 1 2	時間数 1 2	配当学年・時期 3年次	必修・選択 必修		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際障害分類から国際生活機能分類への障がいの捉え方の変遷を理解させる。 ・各種障がいの種類や特性について理解させるとともに、障がいが日常生活に及ぼす影響、機能の活用、地域における支援体制などについて理解させ、利用者の尊厳を守る介護の基本を理解させる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの概念と基礎的理解 ・障がいの種類別の特徴 ・障がいのある人の心理 ・障がいに伴う機能の変化 ・障がいのある人の特性を踏まえたアセスメント、環境因子、個人因子 ・地域におけるサポート体制 ・家族への支援 <p>【授業終了時の達成目標】</p> <p><障害の理解 I ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの理念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ・障がい(身体・知的・精神・発達障がい・難病等)による生活上の障がい、心理・行動の特徴を理解している。 ・障がい児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。 					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
授業テーマ		授業時間数	内 容		授業方法
<p>【障害の理解 I】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉の理念 ・障害による生活障害、心理・行動の特徴・障害児・者や家族へのかかわり・支援の基本 		1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の基礎的理解 ・障害の概念 ・障害者福祉の基本理念 ・生活機能障害の理解 ・身体障害 ・精神障害 ・知的障害 ・発達障害 ・高次脳機能障害 ・難病 		講義 演習
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>こころとからだの理解 (実教出版) 実務者研修テキスト第4巻 (中央法規出版)</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>		

授業のタイトル (科目名) 障害の理解Ⅱ (こころとからだの理解)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 伊藤 晃子 (令和6年度)	
授業の回数 24	時間数 24	配当学年・時期 3年次	必修・選択 必修		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際障害分類から国際生活機能分類への障がいの捉え方の変遷を理解させる。 各種障がいの種類や特性について理解させるとともに、障がいが日常生活に及ぼす影響、機能の活用、地域における支援体制などについて理解させ、利用者の尊厳を守る介護の基本を理解させる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいの概念と基礎的理解 障がいの種類別の特徴 障がいのある人の心理 障がいに伴う機能の変化 障がいのある人の特性を踏まえたアセスメント、環境因子、個人因子 地域におけるサポート体制 家族への支援 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><障害の理解Ⅱ></p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な障がいの種類・原因・特性、障がいに伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。 障がい児者の障がい、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
授業テーマ		授業時間数	内 容		授業方法
<p>【障害の理解Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医学的側面からみた障害の理解 障害児者への支援の実際 		24	<ul style="list-style-type: none"> 障害に伴う心身の変化と日常生活 障害のある人の心理 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響 障害と地域生活支援 地域におけるサポート体制 家族への支援 		講義 演習
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>こころとからだの理解 (実教出版) 実務者研修テキスト第4巻 (中央法規出版)</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>		

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみ I (こころとからだの理解)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 石井 文佳・伊藤 香織 (令和6年度)	
授業の回数 24	時間数 24	配当学年・時期 2年次	必修・選択 必修		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と各機能を理解させ、基本的な生活行動との関連について考えさせる。 ・こころとからだの基礎的な知識を習得させ、介護実践に適切に活用できる能力を身に付けさせる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 ・こころとからだの基礎的理解 <p>【授業終了時の達成目標】</p> <p><こころとからだのしくみ I></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。 					
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p>					
授業テーマ		授業時間数	内容		授業方法
<p>【こころとからだのしくみ I】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護に関連した身体の仕組みの基礎的な理解(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等) 		24	<ul style="list-style-type: none"> ・生活動作に関する基本的なからだのしくみ (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等) 		講義 演習
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>こころとからだの理解 (実教出版) 実務者研修テキスト第4巻 (中央法規出版)</p>			<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>		

授業のタイトル (科目名) ころとからだのしくみⅡ (ころとからだの理解)		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当者 石井 文佳・伊藤 香織 (令和6年度)															
授業の回数 7 2	時間数 7 2	配当学年・時期 2年次	必修・選択 必修																
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と各機能を理解させ、基本的な生活行動との関連について考えさせる。 ・ころとからだの基礎的な知識を修得させ、介護実践に適切に活用できる能力を身に付けさせる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援に必要なころとからだのしくみの理解 ・ころとからだの基礎的理解 <p>【授業修了時の達成目標】</p> <p><ころとからだのしくみⅡ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の基本的欲求・学習・記憶等に関する基礎的な知識を修得している。 ・生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基礎的な知識を修得している。 ・身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。 																			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業テーマ</th> <th>授 業 時間数</th> <th>内 容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>【ころとからだのしくみⅡ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の心理 ・人体の構造と機能 ・身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント ・観察のポイント、介護 ・連携等の留意点 ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・睡眠 ・終末期の介護 </td> <td>7 2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ころのしくみの理解 ・私たちの生活と健康 ・人間の欲求の基本的理解 ・自己概念と尊厳 ・意欲・動機づけのしくみ ・思考・感情のしくみ ・記憶・学習のしくみ ・適応のしくみ ・からだのしくみの理解 ・生命の維持・恒常性のしくみ ・変化に気づくための観察のポイント ・医療職との連携 ・他職種との連携 </td> <td> 講義 講義 演習 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>ころとからだの理解 (実教出版) 実務者研修テキスト第4巻 (中央法規出版)</p> </td> <td colspan="4"> <p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p> </td> </tr> </tbody> </table>						授業テーマ	授 業 時間数	内 容	授業方法	<p>【ころとからだのしくみⅡ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の心理 ・人体の構造と機能 ・身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント ・観察のポイント、介護 ・連携等の留意点 ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・睡眠 ・終末期の介護 	7 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ころのしくみの理解 ・私たちの生活と健康 ・人間の欲求の基本的理解 ・自己概念と尊厳 ・意欲・動機づけのしくみ ・思考・感情のしくみ ・記憶・学習のしくみ ・適応のしくみ ・からだのしくみの理解 ・生命の維持・恒常性のしくみ ・変化に気づくための観察のポイント ・医療職との連携 ・他職種との連携 	講義 講義 演習	<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>ころとからだの理解 (実教出版) 実務者研修テキスト第4巻 (中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>			
授業テーマ	授 業 時間数	内 容	授業方法																
<p>【ころとからだのしくみⅡ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の心理 ・人体の構造と機能 ・身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント ・観察のポイント、介護 ・連携等の留意点 ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・睡眠 ・終末期の介護 	7 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ころのしくみの理解 ・私たちの生活と健康 ・人間の欲求の基本的理解 ・自己概念と尊厳 ・意欲・動機づけのしくみ ・思考・感情のしくみ ・記憶・学習のしくみ ・適応のしくみ ・からだのしくみの理解 ・生命の維持・恒常性のしくみ ・変化に気づくための観察のポイント ・医療職との連携 ・他職種との連携 	講義 講義 演習																
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>ころとからだの理解 (実教出版) 実務者研修テキスト第4巻 (中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期考査、平常テスト、課題・レポートの成績、日常の学習態度などを総合的に評価する。</p>																	